

PROGRAM NOTE

1975

近藤譲：視覚リズム法

ヴァイオリン、バンジョー、スティール・ドラム、電気ピアノ、チューバのための

Sight Rhythmics

for Violin, Banjo, Steel drum, Electric piano and Tuba

この作品は、もともと5楽器（ヴァイオリン、バンジョー、スティール・ドラム、電気ピアノ、チューバ）のための室内楽曲として書かれた。6つの短い楽章から成り、それらの楽章は（特に最初の5つの楽章は）互いに非常によく似ている。元の室内楽版を注意深く聴けば判るのだが、ひとつの楽章と次の楽章との間の違いは、1つの楽器パートが変化するのみであって、他の4つの楽器パートはそれぞれ、前の楽章と全く同じになっている。このようなやり方で産み出される全体的なテクスチャーの変化は、極めて僅かなものでしかない。したがって、これら5つの楽章は、どの楽章もほとんど同じに聴こえるだろう。しかしそれでも、注意深く聴けば、違いに気付くはずである。このような音楽書法を、私は、「偽反復」と呼んでいる。それは、単なる繰り返し（つまり「反復」）と「変奏」の中間に位置していると言えよ。'Scholion'（「注解」）と題された第6楽章では、5楽器すべてのパートが第5楽章とは違っているが、実のところそのテクスチャーは、前の5つの楽章と大きくは変わっていない。文字通りの「反復」は、静止的であって、どこにも侵攻せずに滞留する。それに対して「偽反復」は、ほとんど「反復」のように静止的でありながら、同時に、秘められた変化と動きを表す。動性を秘めたこのような静的状態を言い表すには、「力動的静止」という、矛盾を孕んだ言葉が適切かもしれない。この音楽での「力動的静止」の体験は、私達の日々の暮らしに譬えることができるかもしれない。私達の生活はほとんど同じ毎日の繰り返しだが、しかし、今日は決して昨日と同じではないのだから。

近藤譲

初演：1975年10月（東京）

初演者：篠崎功子（ヴァイオリン） 佐藤紀雄（バンジョー）

山口保宣（スティール・ドラム） 高橋アキ（電子ピアノ） 多戸幾三（チューバ）

出版：C.F.Peters, New York [EP66791A]

録音：AL-12

演奏時間：15分